

■発行■  
2009年3月  
vol.12  
ファルマバレーセンター  
E-Mail mail@fuji-pvc.jp  
URL www.fuji-pvc.jp

# 「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」



〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320  
県立静岡がんセンター研究所1階

## ベッドサイドクラスターのさらなる推進に向けて 東京、静岡で成果発表会を開催



■大勢の出席者で埋めつくされた  
成果発表会



■ベッドサイドクラスターから  
生まれた製品をパネルで紹介  
(静岡がん会議2008)

ファルマバレープロジェクトが一貫して推進する「ベッドサイドクラスター」。ここから生まれた成果の発表会が東京、静岡で相次いで開催された。両発表会には、同プロジェクトに関心を持つ多くの参加者が詰めかけた。

昨年12月18日にアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北)で「ファルマバレープロジェクト成果発表会2008～ファルマバレーの新たな挑戦と企業立地～」、今年2月28日には静岡がんセンターで「静岡がん会議2008～地域産業の活性化とファルマバレープロジェクト～」がそれぞれ開催された。東京の成果発表会で挨拶に立った静岡がんセンターの山口建総長は「医師や看護師、あるいは患者さんの『こういうものがあつたらいいな』というニーズを中心に考えながら、ひとつづくりものづくりまちづくりをやってきた。これを収束させて、モノを作れば製品化につながる確率も非常に高い」と、ベッドサイドクラスターの考え方を説明した。

ベッドサイドクラスター推進の成果は、今年1月末時点で20の製品化に結びついており、また、大手企業のみならず、地元の中小企業、とりわけ異分野からの参入が相次いでいる点特徴だ。こうした参入のきっかけを提案しているの

が、ファルマバレーセンターである。例えば、今年度で開講から4年目を迎えたMOT(技術経営)研修では、普段は出会うチャンスのない、多様な業種の企業と出会う機会があり、また共に切磋琢磨することでビジネスチャンスを生み出している。さらに、同センターがとりまとめを行うバイオネットワークの会員企業にも、積極的に情報提供を行っている。多くの企業が同プロジェクトに参加し、得意分野を生かすことで医師・看護師、患者のベッドサイドニーズに積極的に応えることは、地域にとっても大きな意義がある。

石川嘉延知事は「既に持っているものづくりの力を医療・健康の分野に活用することが、人類に大きな福音をもたらすということが理解できる。これらは最近のちょっとした成果だが、これが今後、大きく産業化に結びつくことを期待している」と同発表会で述べた。

